

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型子ども支援センターたんぽぽ下江津 児童発達支援		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 17日		令和7年 3月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1 (回答者数)	1
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 17日		令和7年 3月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	1 (回答者数)	1
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 個々の特性に合わせたプログラム(個別・集団) ★SST ★粗大運動・微細運動 ★ビジョントレーニング ★感覚・聴覚・視覚・触覚 	<ul style="list-style-type: none"> 個別支援に沿ったプログラムをスモールステップになるよう会議の中でアイデアや意見を出し工夫した支援 集団活動を週ごとに感覚に特化したプログラムを取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝の支援会議を行い個別課題の実行・評価を話し合い全員が共通理解した支援を取り組んでいる。
2	<ul style="list-style-type: none"> 就学に向けた自立支援の疑似体験 	<ul style="list-style-type: none"> 自立支援に向けた取り組み(登校の練習・交通ルール・着脱の練習・和式トイレのための取り組み) 	<ul style="list-style-type: none"> 就学して困らないような支援や実際に登校の疑似体験(ランドセルを背負って歩く・傘をさして歩く)などすることでイメージできるように取り組んでいます
3	<ul style="list-style-type: none"> 視覚支援の充実 物理的構造化された環境 	<ul style="list-style-type: none"> 個々に合わせた視覚支援(写真・絵カード・文字) おもちゃやおやつカードで要求の成功体験につながる。 学習・個別・活動のエリアが明確 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の視覚支援も多く刺激にならないよう視覚的構造化の工夫。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練等を実施しているが認識できていない 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の通信やホームページに活動内容を掲載している通信も避難訓練のブログ掲載のお知らせでアイコンをつけ毎回様々な工夫をしてお知らせしている。 保護者にも引き渡し訓練・防災食訓練で協力得ているが評価の時期の印象には残っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人間でのSNS(LINE/mail)でお知らせも今後検討
2	<ul style="list-style-type: none"> 環境因子(児童が過ごしやすい住居環境を整える) 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所が2階に位置し1階が保育園の為、時間帯で配慮が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の内容も工夫し夏休み外出も熱中症対策が必要である。静の活動の幅を広げていく。
3	<ul style="list-style-type: none"> 保護者交流会の参加 	<ul style="list-style-type: none"> 様々なイベント(親子ワークショップ・茶話会・ミカン狩りBBQ・夏祭りなど)工夫しているが周知が弱く参加人数が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏祭りで児童が作った作品販売では集客があった。子どもが家族に声かける内容であれば周知につながる。またSNSでの呼びかけも検討。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		公表日				利用児童数		回収数	
多機能型子ども支援センターたんぽぽ下江津 児童発達支援		令和 7年 3月 13日				1名		回収数 1	
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見		ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	1							
	2	1							
	3	1							
	4	1							
適切 な 支 援 の 提 供	5	1							
	6	1							
	7	1							
	8	1							
	9	1							
	10	1							
	11	1							
保 護 者 へ の 説 明 等	12	1							
	13	1							
	14	1							
	15	1							
	16								
	17	1							
	18					1	・参加できていないです。		
	19	1							
	20	1							
	21	1							
非 常 時 等 の 対 応	22	1							
	23	1							
	24	1							
	25	1							
満 足 度	26	1							
	27	1							
	28	1							
	29	1						・園でできないことを支援したくさり感謝しています。	

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
多機能型子ども支援センターたんぽぽ下江津 児童発達支援		令和7年 3月 13日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		静かにするスペースや、学習するスペースなどを設けている	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6			
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6			
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6			
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		リラックスできる部屋や、パーテーション等を使用し構造化	
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		毎朝、個別支援に沿ったプログラムをスモールステップになるよう会議の中でアイデアや意見を出している	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		毎回工夫し、改善に努めている 通信にアイコンを付けている	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		毎朝、その都度行われている	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6		他事業所より定期的に巡回、評価しあっている	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		外部研修も積極的に赴いている	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6			
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6			
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6			
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		毎朝、支援会議で共有し全員が共通理解した支援をしている	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		行動記録・分析をケース記録以外にも行っている	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6			
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		長期休暇時に体験学習や様々な経験ができるような活動や公共マナー・自立支援に向けた取り組み（買い物学習・公共機関・調理活動）を立案	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		・週ごとに集団活動として感覚・視覚・聴覚・触覚に特化した活動プログラムを取り組んでいる ・利用児童にあわせてルールの修正や前回利用の振り返りをしたり日々改善している	
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		毎朝の会議でその日の利用者全員行っている	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		本人の様子、学校の様子、学級の様子を支援。終了後又は翌日の朝礼で共有	

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
関係機関や保護者との連携	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		こども1人1人に合わせた内容を検討し実行している	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6			
	28	(28～30は、センターのみ回答)	6			
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	6			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	6			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。	6			
	31	(31は、事業所のみ回答)	6			
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6			
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	4	2	茶話会やワークショップなど行っている	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6			
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		事業所独自のヒアリング票を作成し、ニーズの本質を見極めながら行っている	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		毎回開催するが参加が弱い	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6			
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		ブログ、通信に活動内容を載せている	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6			
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		毎月防犯・防災訓練を行っている	

非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		安全対策委員会の設置	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		保護者の了承等、その内容を記録している	
	53	虐待防止委員会及び身体拘束適正化検討委員会を定期的で開催し、その結果について従業者に周知徹底しているか。				
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。					